



旭川

第19回 生涯学習フェアまなびピア

JICA旭川デスク、国際交流課、国際交流委員会の取り組み(平成22年2月12~14日)
国際協力推進員/石井 JICA旭川デスク(旭川市役所第3庁舎国際交流課内)

午前中は①平成21年度教師海外研修(エジプト)報告会、②草の根技術協力事業専門家帰国報告会が和やかな雰囲気の中に行われ、昼食は「世界の食体験」でした。会話も弾み海外の即席ラーメン、お菓子、お茶などを楽しみました。

午後からは旭川市在住外国人(6カ国14名)との

意見交換会で、旭川市観光課からの「気に入っている場所、



「旭川に住んでいて生活する中で不便なことはありませんか?」バスの停留所や番号、路線が複雑であるという声がでていました。なるほど…参考になります。

持ち帰るおみやげ、おいしい食べ物、冬の遊び」などの多くの質問に答えてもらいました。「心が癒される秘密の場所」として、「自分の故郷の風景と似た場所をみつけて心をいやしている」という話はとても印象的でした。

次に旭川市消防本部指令課から、防災にかかる質問がありました。世界の119番は国によって違います。119番をかける場面ですらどうしたらよいのか実際にやってみました。①外国語でかけて音声ガイダンスに従い行う。②日本語でかけて日本語で質問に答える。この2つのパターンを見事にこなし、参加者は何かあった時には恐れずに



▲「(もしもし)」、中国語音声ガイダンスの指示に従って対応している王さん。緊張感が高まる中、お見事でした!

119番をかける自信がついたようでした。途中、非常食を作り、実際に食べてみました。アツアツの炊き込みご飯、おいしかったです。



函館

JICAベトナム青年研修&はこだて市民

~こころの交流~ 国際協力推進員/津田 JICA函館デスク((財)北海道国際交流センター内)

1月19日~28日までの10日間、18名のベトナム青年が函館の雪地进行しました。彼・彼女たちは北海道国際交流センター(HIF)が組み立てた職業訓練教育の研修に参加。毎日、さまざまな施設を巡り、講師の方々から「今の北海道や函館について」多くを学びました。しかし、いつも勉強ばかりじゃ頭でかちになってしまいます。23日24日の土日を利用し、函館在住の方々と共に1泊2日の合宿セミナーを行いました。

函館にほど近く3つの湖と駒ヶ岳を抱く大沼国定公園「国際交流セミナーハウス」が合宿場所。最高の大自然雪をバックにお互いの国を紹介しあう「カントリーレポート」や「私たちはこう思うけど?どう思う?」など充実した意見交換会が実施されました。



▲ききょう幼稚園の先生方とパチリ

夜はベトナムの方々美しい衣装

を身に纏い、歌や踊りを披露して下さいました。函館の参加者は昔から愛されている遊びをご紹介します。やはり人気は「折り紙」「けん玉」。マニアックなところで「竹とんぼ」。「羽子板」はなぜか男性に大人気で、大粒の汗が流れるほど熱血魂に火が…。両目に万華鏡をあてて見ている方も(どのように見えるのだろうか?)。こころに残る合宿セミナーになりました。また、帰国間際、函館のききょう幼稚園の園長先生方のはからいで夕食会にご招待いただきました。ききょう幼稚園さんはベトナムに姉妹提携をしている幼稚園があるそうで、18名の青年研修生は大喜び。お食事を楽しみながら、園長先生のお話&写真にも舌鼓を打ちました。ありがとうございました&ごちそうさまでした!



▲両目に万華鏡??



札幌

PCM研修(モニタリング・評価)

市民参加協力調整員/大弥 JICA札幌

ここではこれまで、いろいろな草の根技術協力を紹介してきました。今回はそれらの事業をどのように運営管理・評価するかを学んだPCM研修についてご紹介します。1月23日、24日の2日間で行われたこの研修には大学関係者や地方自治体、NGO等で国際協力に関わる業務についている方16名が参加し、事例を用いてプロジェクト管理を行う手法を学びました。効果的な援助の実施には評価制度の整備が不可欠となっています。参加者からは「具体的な指標の設定の仕方が理解できた」

「プロジェクト立案に有効な研修であった」との声が聞かれ、実りある研修となりました。



▲4グループに分かれてのワークショップ



▲「ここをどう評価する?」